

## 特定鳥獣保護管理検討委員会及び屋久島世界遺産地域科学委員会ヤクシカ・ワーキンググループ合同会議について

### 1 合同会議について

世界遺産地域における個体数管理等を含む全島を対象とした統合的なヤクシカ管理計画や被害対策等を検討するために、特定鳥獣保護管理検討委員会とヤクシカワーキンググループによる合同会議を平成26年度から開催している。

### 2 検討委員について

#### 特定鳥獣保護管理検討委員会

##### 【学識経験者】

船越 公威 鹿児島国際大学教授

##### 【自然保護団体】

手塚 賢至 ヤクタネゴヨウ調査隊代表

##### 【関係機関】

笠井 林 上屋久猟友会長

小脇 清保 屋久町猟友会長

岩川 現造 種子屋久農業協同組合屋久島支所屋久島統括理事

牧 実寛 屋久島森林組合代表理事組合長

#### ヤクシカ・ワーキンググループ

##### 【科学委員会委員】 5名

矢原 徹一 九州大学大学院理学研究院教授

小泉 透 (独)森林総合研究所 研究コーディネータ

荒田 洋一 樹木医(屋久島在住)

湯本 貴和 京都大学霊長類研究所所長

松田 裕之 横浜国立大学大学院環境情報研究院教授

##### 【特別委員】 4名

手塚 賢至 ヤクタネゴヨウ調査隊代表 (重複)

鈴木 正嗣 岐阜大学応用生物科学部教授

濱崎 伸一郎 (株)野生動物保護管理事務所代表取締役

杉浦 秀樹 京都大学野生動物研究センター准教授

合計 14名

### 3 経緯等

- 平成22年 7月28日 平成22年度第1回屋久島世界遺産地域科学委員会において、  
ヤクシカ・ワーキンググループの設置について承認  
（年2回ワーキンググループ開催）
- 平成26年 2月28日 第8回ヤクシカ・ワーキンググループ開催（鹿児島市）
- 平成26年10月25日 平成26年度第1回特定鳥獣保護管理検討委員会及び屋久島世界遺産地域科学委員会ヤクシカ・ワーキンググループ合同会議開催（第1回）（屋久島町）
- 平成28年 8月 4日 平成28年度第1回特定鳥獣保護管理検討委員会及び屋久島世界遺産地域科学委員会ヤクシカ・ワーキンググループ合同会議開催（第5回）（屋久島町）

### 4 平成28年度第1回合同会議の検討経過概要等について

- (1) 平成27年度第2回合同会議の概要等について
- (2) ヤクシカの現状について
- (3) 関係機関の平成27年度及び平成28年度取組について
- (4) 第二種特定鳥獣（ヤクシカ）管理計画について
- (5) 生態系管理目標（素案）について
- (6) GPS首輪による移動状況の捕獲圧及び地域毎の環境要因との関係性の分析について

以上の議事等について、検討した。

（議事次第は別紙のとおり、なお、資料は事前に配布済みのため添付を省略。）

平成28年度第1回特定鳥獣保護管理検討委員会及び  
屋久島世界遺産地域科学委員会ヤクシカ・ワーキン  
ググループ合同会議

議 事 次 第 (案)

日 時 : 平成28年8月4日(木) (14:00～16:30)

場 所 : 屋久島環境文化センター レクチャー室

1 開会

2 挨拶

3 委員紹介

4 議事

(1) 前回合同会議の検討経過概要等について

① 概要報告

(2) ヤクシカの現状について

① ヤクシカによる被害状況

② ヤクシカの捕獲状況

(4) 関係機関の平成27年度及び平成28年度取組について

(環境省、鹿児島県、屋久島町、林野庁)

(5) 第二種特定鳥獣(ヤクシカ)管理計画について

(6) その他

① GPS首輪による移動状況の捕獲圧及び地域毎の環境要因との  
関係性の分析について

5 閉会

## 議事概要

平成 28 年度第 1 回特定鳥獣保護管理検討委員会及び屋久島世界遺産地域科学委員会ヤクシカ・ワーキンググループ合同会議

開催日時：平成 28 年 8 月 4 日（14:00～17:00）

開催場所：屋久島文化村センター 1 階（レクチャー室）

議事(1)資料1-① 平成 27 年度第 2 回特定鳥獣保護管理検討委員会・ヤクシカ WG 合同会議議事概要	
資料概要	前回のヤクシカワーキングでは大きく分けて、①生息状況について、②ヤクシカによる被害状況、③ヤクシカの捕獲状況、④ヤクシカの移動状況調査、⑤計画捕獲の検討、⑥生態系管理目標について実施した。
議事(2)資料2-① 屋久島町における鳥獣被害の実態	
資料概要	屋久島町における鳥獣被害の実態、平成 27 年度屋久島町におけるヤクシカ捕獲状況、国有林別のヤクシカの捕獲数と捕獲効率（CPUE）の推移についてとりまとめている。
主な意見	<ul style="list-style-type: none"><li>・銃猟ではメスを選択した捕獲はしていないが、今後選択的に捕獲を行う必要がある。</li><li>・捕獲数が減少していることについては、スレジカが増加しているか個体数の減少によるものかをどのように検証するのか。これをくくり罠の限界と捉える考え方もある。</li><li>・捕獲場所をローテーションして行けば捕獲数はある程度担保できるが、捕獲しやすい場所から捕獲していくと、ある程度のところで頭打ちになると思われる。</li><li>・シカのロードキルは減少しつつある。</li></ul>
議事(3)資料3-① 環境省のヤクシカ対策の取組状況	
資料概要	環境省による平成 27 年度のヤクシカ対策の取り組み状況と、平成 28 年度の取り組み概要について説明した。特に、林道におけるシャープシューティングの体制については、課題や安全面での課題を抽出、整理するため、関係機関や学識者による現地検討会を開催する予定である。
主な意見	<ul style="list-style-type: none"><li>・シャープシューティングの体制の構築は有望な手法になると思われる一方、国有林では銃による捕獲が制限されているが、今後について実施可能なのか。</li><li>・国有林では銃猟が制限されているが、できないと決めているわけではない。国有林の奥地で実施するためには、生息密度や生息域を把握する必要がある。また、奥地での捕獲には国有林だけでなく屋久島全体で取り組むべきである。</li><li>・これまでワナ猟が主流であったが、銃猟に移行していくのであれば、島内での人材育成等の予算が必要になる。また、島外から銃猟のできる人材を連れてくるのであれば、制度や体制を検討する必要がある。</li></ul>
議事(3)資料3-② 鹿児島県のヤクシカ対策	
資料の概要	鹿児島県のヤクシカ対策について、平成 35 年に個体数を半減することを目標に捕獲シミュレーションを作成した。
主な意見	<ul style="list-style-type: none"><li>・河川界区分ごとのシミュレーションは、最新のデータを取り入れた予測をおこない、数値を見直していく必要がある。</li></ul>
議事(3)資料3-③ 平成 27 年度屋久島町における鳥獣被害防止対策	
資料概要	屋久島町における鳥獣被害の実態と対応では、平成 22 年度をピークに減少している。平成 27 年度は、被害確認ができ次第、猟友会に依頼して銃器による集中捕獲を実施し、

## 議事概要

平成 28 年度第 1 回特定鳥獣保護管理検討委員会及び屋久島世界遺産地域科学委員会ヤクシカ・ワーキンググループ合同会議

	要望のあった地区には侵入防止柵を整備した。平成 28 年からは導入すべき地区を選定して平成 29 年度以降の整備計画をたてる。
主な意見	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 捕獲後の適正処理については、町では冷凍したものを島外に搬出しているとしているが、使用目的を猟友会にも周知してほしい。</li><li>・ 冷凍コンテナで搬入後は、霧島の業者がボイラー用として油を抽出して残ったものは焼却処分している。その他、ドッグフード等に利用することも思考している。いずれにしても様々な方法を取り入れていく必要があると考えている。</li></ul>
<b>議事(3)資料3-④平成 28 年度国有林におけるヤクシカ対策について</b>	
資料概要	野生鳥獣との共存に向けた生息環境等整備調査事業、ヤクシカの有害鳥獣捕獲等による取り組みを関係者間で情報共有しつつ、民有林隣接の国有林までも含めた有害鳥獣捕獲を実施していく。また、国有林における委託調査では、ヤクシカの生息、移動状況や被害状況などを把握した上で、植生の保護や再生方法、ヤクシカの個体数調整方策を含むヤクシカに関する総合的対策を検討していく。
<b>議事(4)資料4-① 第二種特定鳥獣(ヤクシカ)管理計画について</b>	
資料概要	ヤクシカ個体数の安定的な維持、生態系被害、農業被害の軽減並びに世界自然遺産としての普遍的価値の保全や回復を図るために第二種特定鳥獣保護管理計画を策定する。
主な意見	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 捕獲手法の実証等はこの事業のなかで実現可能であるため、取り組んでほしい</li><li>・ 管理目標については、遺産地域以外にも貴重な植生自生地があるため、保護することも目標に入れてほしい</li></ul>
<b>議事(5)資料5-① 生態系管理の目標(素案)について</b>	
資料概要	生態系管理の目標およびそのモニタリング手法、河川界別の生態系管理の方向性、地域別生態系の復元目標と生態系管理の目標設定について示した。
主な意見	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 地域別の生態系の復元目標を遺産登録時に設定することについては、要検討である。屋久島には原生的な場所だけでなく、人為の強い場所もあるため目指す復元目標をどこに設定すべきなのか、場所によって設定に差異がでるのか議論していく必要がある。</li><li>・ 生態系管理の目標についてはこれまでの WG でも提示されてきたが、(案)策定に向けて委員等へのヒアリングを行い、第二回 WG までにある程度整理し、合意形成を進めていく必要がある</li></ul>
<b>議事(6)資料6-① GPS 首輪による移動状況の捕獲圧及び地域ごとの環境要因との関係性の分析について(植生被害状況の再検討を含む)</b>	
資料概要	統計モデルを用いた分析手法により、ヤクシカの行動パターンを分析した。また、河川界区分に生息するヤクシカ(メス)の移動に与える要因の効果を抽出した。
主な意見	<ul style="list-style-type: none"><li>・ これからも GPS データは解析には必要であり、奥山(高標高)でのシカの行動調査についても季節的な移動の有無等を把握していくことが重要</li></ul>